



真夏の軽井沢

登録組織及び関係者の皆様。

新年明けましておめでとうございます。

本年も組織に見合った審査を行いますことを、登録審査員とともにお約束いたします。近年国際化の波が一段と大きくなってきました。どうぞそのツールである国際規格 ISO をご活用ください。

DAS ジャパン(株)

代表取締役 萩原睦幸

1. 国際規格 ISO とは何か？

1987年に初めて誕生した ISO9001 は瞬く間に世界に広がり、今や世界の120以上の国々に導入されています。当初「品質」だけでしたが、その後「環境」「情報セキュリティ」「労働安全衛生」「事業継続」「食品安全」「医療機器」「エネルギー」「IT サービス」「クラウドセキュリティ」「道路交通安全」「贈収賄防止」などが発行され、今やその数は20アイテムに迫ります。

いずれも組織のマネジメントシステムに関わる規格で、このシステムの導入により責任と権限の明確化、仕事の効率化、そして社員の能力向上など多数のメリットが得られるとされています。

当初欧州だけだったものが、今や世界の国々にこの規格が広まったのは、当初の貿易の障壁撤廃だけにとどまらず、世界中の国々の価値観が同じであることの証明にもなりました。

2. 当初のマネジメントシステムの構築は？

ISOを組織に導入数するためには、規格の要求事項に基づいてマネジメントシステムを構築する必要があります。この場合重要なのは、規格の要求事項をもとにシステムを構築するのではなく、あくまでも仕組みのベースは自社の業務のプロセスだと考えることです。「ISOは役立たない」とよく言われますが、ISO要求事項に振り回され自社の仕組みではなくなっている場合が少なくありません。

もともとISO要求事項は「ある組織のモデル」を想定して作られています。裾野の広い「メーカーの組立産業」だといわれていますが、今やメーカーだけではなく、建設業、サービス業、IT企業など数千業種がこのISOを導入しています。となれば、メーカー寄りの要求事項をいくらかでも自社なりの業務に落とし込むことが許されてよいはずで。

3. P-D-C-Aを回せ！

意外と気づいていないのですが、ISO要求事項の順序がすでにP-D-C-Aになっているのです。つまり構築したマネジメントシステムを運用するだけで仕組みが改善され「役立つシステム」に脱皮できるというわけです。しかなしながら多くの組織で、後半のC-Aが形式的であまり機能せず、改善につながっていないのです。当初の仕組みは完べきではありません。認証欲しさに急いで構築したり、他社のシステムをそのまま持ち込んだ場合もあるでしょう。実はその後の運用で大きな差がつくのです。自社に合わないところを改善したり、もっと役立つ仕組みにするにはどうするかを考えた企業が「勝ち

組」に入るので。学業でもスポーツでも常に「自己反省」を怠らない人こそその後大成功するのです。今注目のヤクルトの村上選手は、小さいころからなぜだめだったのかをとことん考え抜くことを習慣化したことで、今や世界が注目する選手になれたのです。

4. 審査員を活用する！

審査中のさまざまな疑問点は、担当審査員に遠慮せずどしどし質問し解決を図ったらいかがでしょうか。年1回の受審の機会を大いに利用することをお勧めいたします。もちろんISO審査ですから、コンサルはできません。ですが考え方の糸口までなら許されるはずです。もうひとつは、ISO要求事項の意図の理解です。たしかに要求事項でわかりにくい内容はいくつかあります。このような場合、審査員はその意図を説明する義務があるのです。弊機関は定期的に「審査員研修会」を開催し、すべての審査員の規格の解釈や意思統一を図っていますので、各審査員のばらつきはありません。某組織は、審査を始める冒頭に一年間のISO実績をまとめて説明すると同時に、いくつかの疑問点の回答を担当審査員に迫ったといいますから、まさにこの組織には脱帽です。

5. 行政がISOに後ろ向き？

弊機関に登録してる某組織から、最近行政が以前よりISOに消極的になったというお話をされました。この国際化の時代にそれに逆行する考えはにわかには信じられませんが、それだけもうISOが世の中に普及した証かもしれません。一方私の友人の中央官庁幹部は、ISO認証組織は裏で必ず評価しているといっていましたから、地方の職員の話はあまりあてにしない方がよいかと思います。

ウクライナ戦争、コロナのパンデミック、大きな気候変動、それに近いうちの人口爆発など、世界は益々狭くなり国際協力を求められる時代が来ることは間違いありません。それに備え、国際化の障壁をなくすのに貢献度が高いこのISOマネジメントシステムが注目されるのは間違いありません。

6. CSRやSDGsに注目？

ISO14001取得組織で、「環境目標」の設定に悩んでいるところが少なくありません。「紙」「ゴミ」「電気」の後に何に取り組みばよいのか悩んでいるというわけです。

実はISO14001は、もともとCSRやSDGsから生まれてきたのです。人間がこの地球上に快適に生活できるのは、地球環境が良好であってこそで、それは企業の社会的責任であり、かつさまざまな人類共通の目標を実現して初めて達成できるというわけです。ということから、小さなことでもかまいませんので、ISO14001の目標として「社会貢献活動」を加えたらいかがでしょうか。

< DAS ジャパンから >

電話よりもメールでご連絡を！

最近何かでお急ぎの場合、電話でご連絡を頂きますが、コロナ禍の昨今不在の場合が多く、対応できない場合がしばしばです。実はお急ぎの場合、電話よりもメールでの連絡の方が早く解決できるのです。電話を頂き、あらためてこちらから電話しても、今度は相手先が不在の場合もあり、とても非効率です。

(編集責任者 萩原由利)



英国系 ISO 認証機関 DAS ジャパン(株)

代表取締役 萩原睦幸

東京都豊島区東池袋 3-20-16-503

info@das-japan.jp

<http://www.das-japan.jp>